

建築工事等特記仕様書 (Word) の 操作概要

令和8年2月1日
神戸市建築技術管理委員会

令和8年3月1日改訂版

※発注図書の体裁の統一及び特記事項の明瞭化のため、
必ずこの操作概要に沿って作業を行ってください。

建築工事特記仕様書の操作概要

I 入力作業前の設定事項 (I)

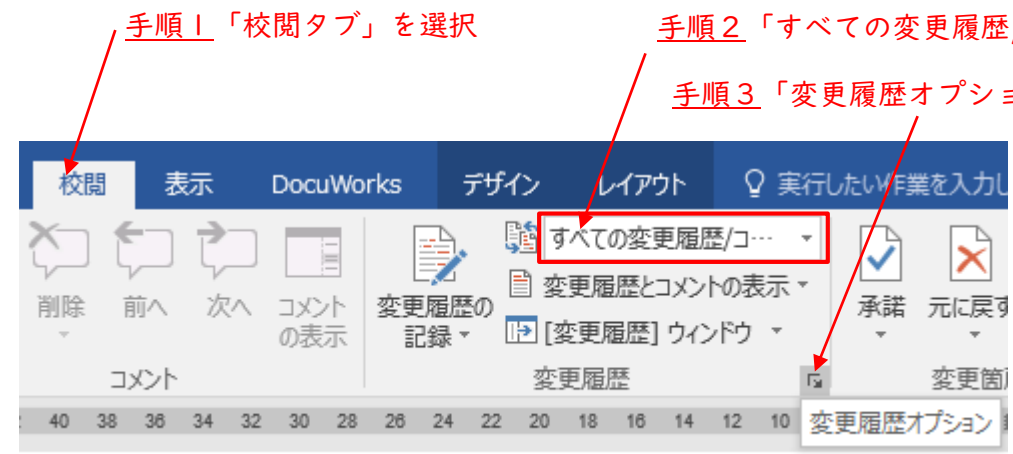
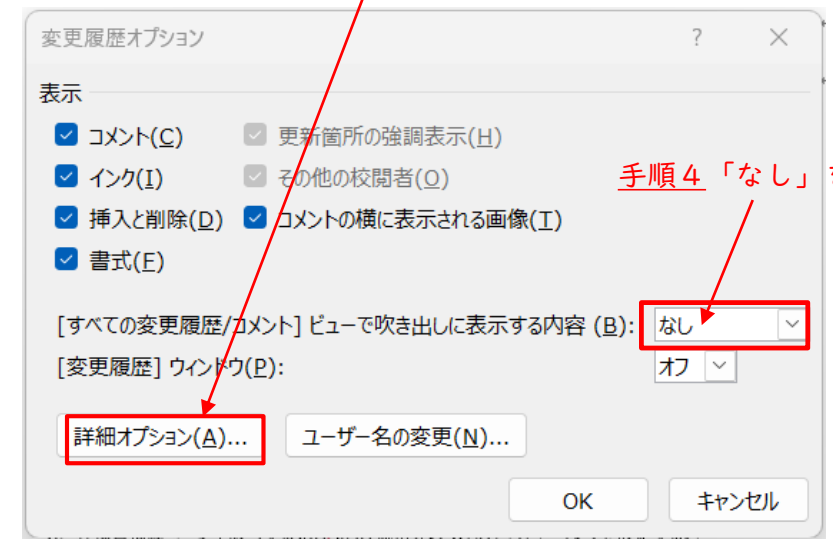
入力作業前の設定事項(I) Wordソフトの設定 ※使用中のPCで一度設定すると保持されます。

目的

追記した「○」印や文字列が自動で「赤字」表示されるようにする
(削除されたところは明示されません)

手順

1. 「校閲」タブを選択
2. 「変更履歴オプション」を左クリック
3. [すべての変更履歴/コメント] を「なし」を選択
4. 「詳細オプション」を左クリック
5. 「変更履歴とコメント」の赤線の範囲内を図のように修正



建築工事特記仕様書の操作概要

2 入力作業前の設定事項（2）

入力作業前の設定事項(2) 各ファイルに入力する際の手順 ※(1)の設定を行っていない場合は「赤字」表示されません。

手順

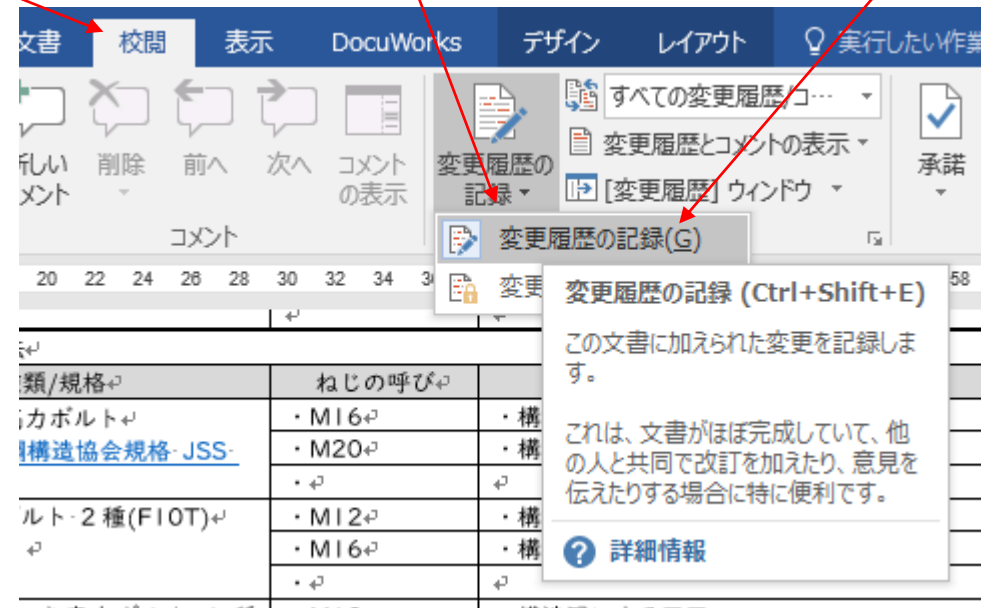
1. 「校閲」タブを選択
2. 「変更履歴の記録」を選択
3. 「変更履歴の記録」を左クリック

- ・上記の作業後、追記した「○」印や文字列は「赤字」で表示されるため、当該工事固有の特記項目がわかりやすくなります。
- ・発注図書も赤字のまま取り扱うこととします。

手順1 「校閲タブ」を選択

手順2 「変更履歴の記録」を選択

手順3 「変更履歴の記録」を左クリック



建築工事特記仕様書の操作概要

3 適用項目に「○」を付ける方法

適用項目に「○」を付ける方法

手順

1. 当該「・」部分を選択⇒グレーに反転
2. 「ホームタブ」⇒「フォント」⇒「囲い文字」を選択
3. 「スタイル」⇒「外枠のサイズを合わせる」
4. 「囲い文字」⇒「○」を選択
5. 「OK」をクリック
6. 「・」が「○」に変わり完了
7. 次の「・」を選択し F4キー（※）を押すと上記手順2～6が実行される

※F4キーは「直前の操作を繰り返す」ショートカットキー

手順3

「外枠のサイズを合わせる」を選択

手順4 「○」を選択

手順5 「OK」をクリック

手順2 「囲い文字」を選択

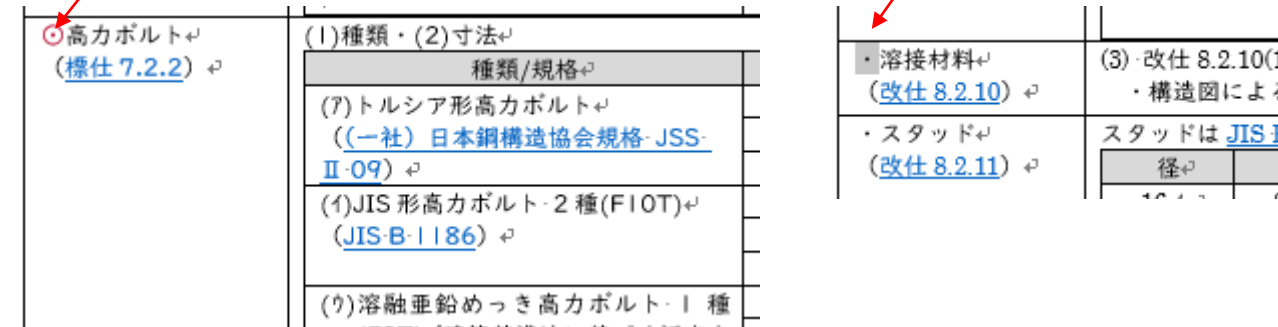
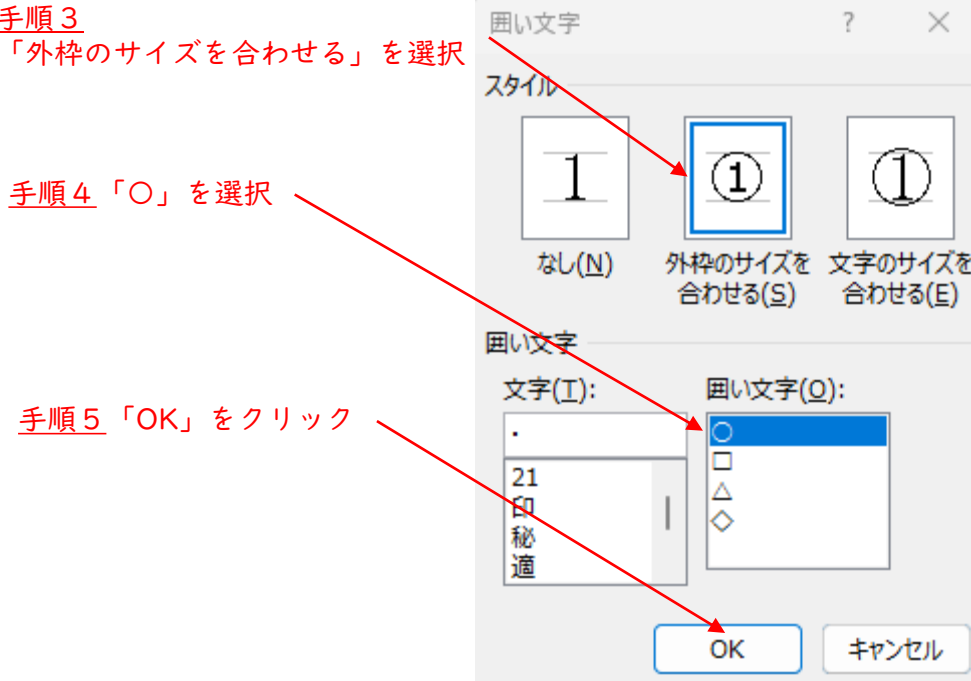
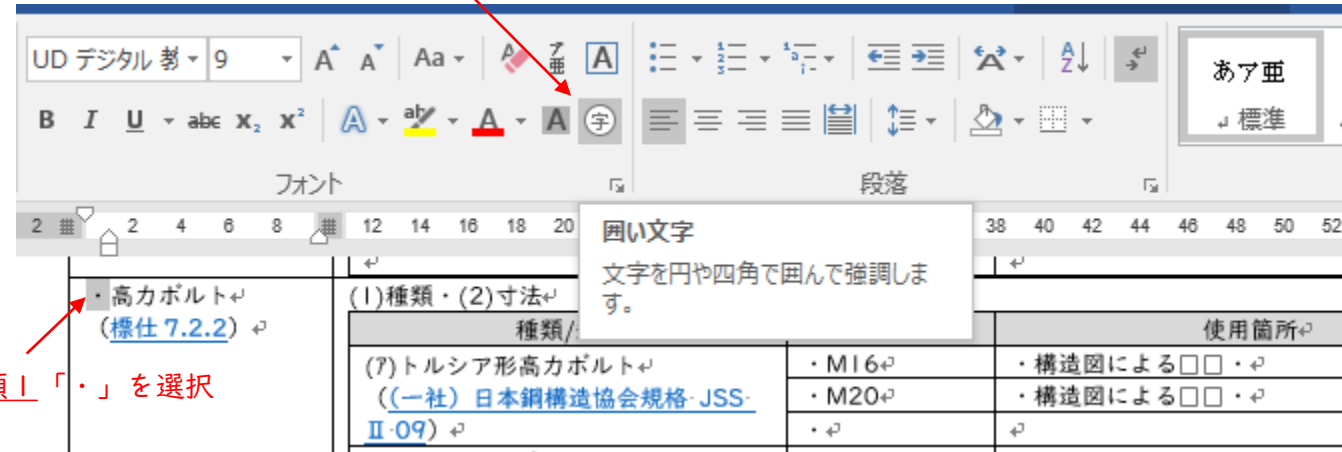
手順1 「・」を選択

手順6

「・」が「○」に変わり選択完了

手順7

次の「・」を選択し、「F4キー」を押すと手順2～6が実行される



建築工事特記仕様書の操作概要

4 建築工事特記仕様書の入力方法 (適用する項目の選択方法)

項目	特記事項																								
1節 共通事項																									
<ul style="list-style-type: none"> 防水工事の保証書の提出及び保証年限 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>保証書提出工事</th> <th>保証箇所</th> <th>保証年限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">アスファルト防水</td> <td>屋根(保護用)</td> <td>※10年・年</td> </tr> <tr> <td>屋根(露出用)</td> <td>※10年・年</td> </tr> <tr> <td>浴室・便所</td> <td>※10年・年</td> </tr> <tr> <td>地下室・貯水槽</td> <td>※10年・年</td> </tr> <tr> <td>改質アスファルトシート防水</td> <td></td> <td>※10年・年</td> </tr> <tr> <td>合成高分子ルーフィング防水</td> <td></td> <td>※10年・年</td> </tr> <tr> <td>塗膜防水</td> <td></td> <td>・10年・5年・年</td> </tr> <tr> <td>ケイ酸質系塗布防水</td> <td></td> <td>・10年・5年・年</td> </tr> </tbody> </table> <p>※保証書(請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証)は各2通提出すること。 ※防水施工者は、防水材料製造所指定の施工者とし、監督員の承諾を受ける。</p>	保証書提出工事	保証箇所	保証年限	アスファルト防水	屋根(保護用)	※10年・年	屋根(露出用)	※10年・年	浴室・便所	※10年・年	地下室・貯水槽	※10年・年	改質アスファルトシート防水		※10年・年	合成高分子ルーフィング防水		※10年・年	塗膜防水		・10年・5年・年	ケイ酸質系塗布防水		・10年・5年・年
保証書提出工事	保証箇所	保証年限																							
アスファルト防水	屋根(保護用)	※10年・年																							
	屋根(露出用)	※10年・年																							
	浴室・便所	※10年・年																							
	地下室・貯水槽	※10年・年																							
改質アスファルトシート防水		※10年・年																							
合成高分子ルーフィング防水		※10年・年																							
塗膜防水		・10年・5年・年																							
ケイ酸質系塗布防水		・10年・5年・年																							
<ul style="list-style-type: none"> 水張り試験 	<ul style="list-style-type: none"> 行う ※行わない 試験箇所: 図示 試験方法 ※ドレイン廻りをルーフィング類やウエス類で仮のふたをして、防水層の立上り端部を越えない様に水を張り、24時間以上そのままにしておいた後、周辺や階下への漏れの有無を確認する。 																								
2節 アスファルト防水																									
<ul style="list-style-type: none"> 材料 (標仕 9.2.2) 	<ul style="list-style-type: none"> (3)アスファルトルーフィング類 <ul style="list-style-type: none"> 改質アスファルトルーフィングシート (JIS A 6013) ※標仕 表 9.2.3、表 9.2.4、表 9.2.5、表 9.2.6、表 9.2.7、表 9.2.8 による ※厚さは JIS A 6013 表 4 による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート (JIS A 6013) ※標仕 表 9.2.5、表 9.2.6、表 9.2.7、表 9.2.8 による ※厚さは JIS A 6013 表 4 による (6)押え金物: ※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度 (8)屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 (JIS A 9521) 種類: ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 bA (スキン層付き) 厚さ: 図示 mm (9)屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 (JIS A 9521) 種類: 図示 硬質ウレタンフォーム断熱材 (・2種1号 ・2種2号) 厚さ: 図示 mm 																								

該当項目に○を付ける
(項目含む)

※印が適用
 ※以外を適用する場合は、
 「・」に○を付けて記入

特記事項で適用する
 「・」に○を付ける

9章防水工事(新営)抜粋

建築工事特記仕様書の操作概要

5 不要な章を非表示（折り畳み）にする方法

不要な章を非表示（折り畳み）にする方法

※この手順で操作を行わないと、折りたたんだ状態が保持されません。

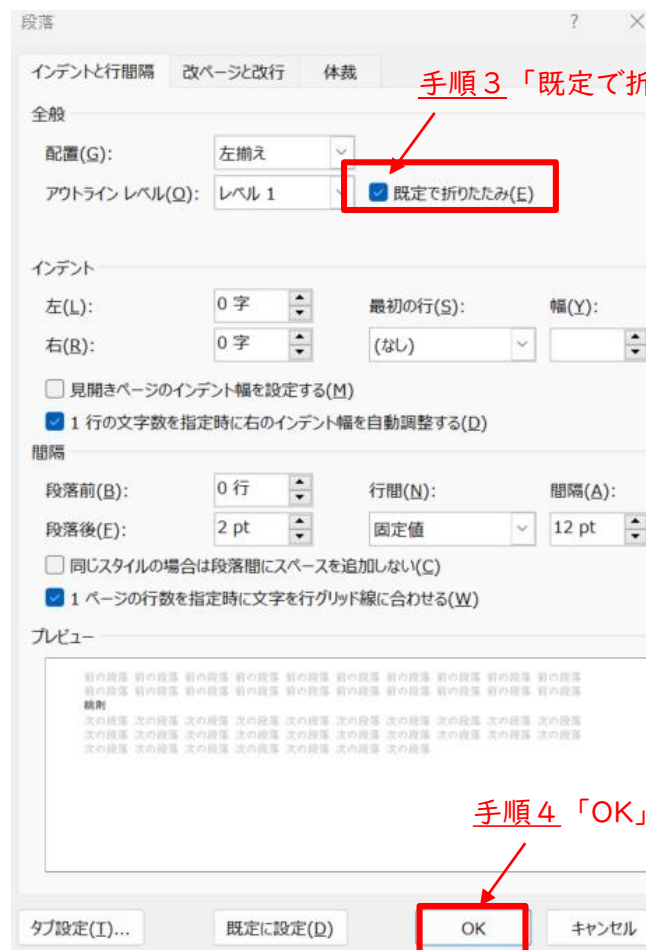
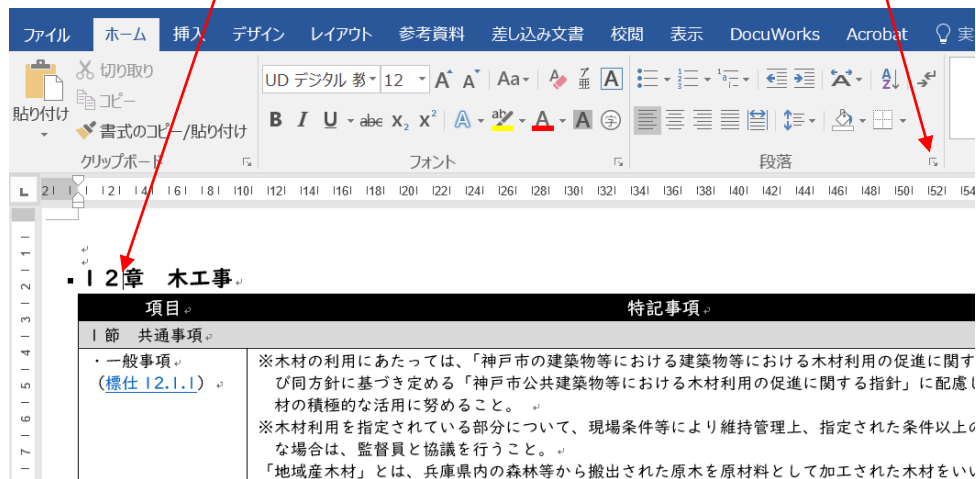
手順

例：当該工事に「木工事」が無いため非表示にする場合

1. 表の直上の「見出し行」にカーソルを移動
2. 「ホームタブ」⇒「段落」を左クリック
3. 「既定で折りたたみ」にチェック
4. 「OK」をクリック

手順1 「見出し行」にカーソルを移動し左クリック

手順2 「段落」を左クリック



手順3 「既定で折りたたみ」を選択

手順4 「OK」をクリック

12章 木工事 ← 選択した章が折りたたまれる

13章 屋根及びとい工事

項目		特記事項
1節 共通事項		
※一般事項	※金属板による葺板、軒先包み板の類の端部、小口及び切断面等の防錆処理は十分に行うこと。	

建築工事特記仕様書の操作概要

6 目次の更新方法

目次の更新方法

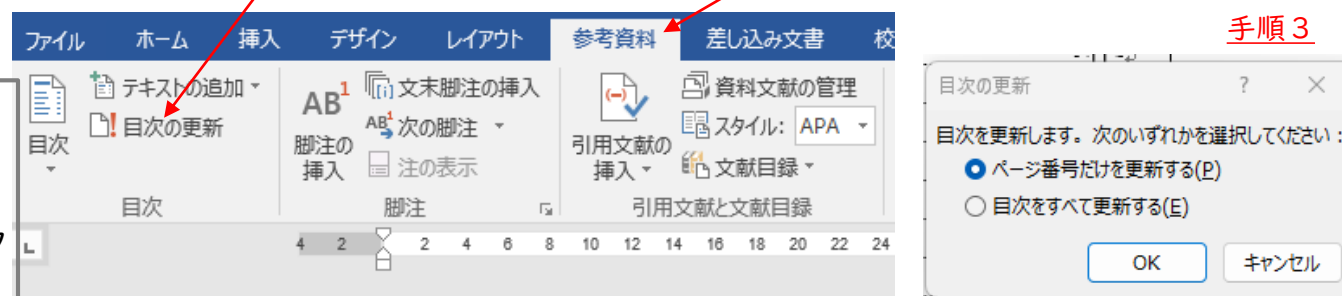
目的：非表示にした章による目次のページのずれを修正する

手順

1. 「参考資料」タブを選択
2. 「目次の更新」を左クリック
3. 「ページ番号だけを更新する」を選択し「OK」を左クリック
4. ページ番号が更新される（赤字での表示となる）

手順2 「目次の更新」を左クリック

手順1 「参考資料」タブを選択



手順3

更新前

「総則」	- 1 -
1 章□各章共通事項	- 3 -
2 章□仮設工事	- 9 -
3 章□土工事	- 11 -
4 章□地業工事	- 11 -
5 章□鉄筋工事	- 13 -
6 章□コンクリート工事	- 14 -
7 章□鉄骨工事	- 17 -
8 章□コンクリートブロック、ALCパネル及び押出成形セメント板工事	- 19 -
9 章□防水工事	- 20 -
10 章□石工事	- 23 -
11 章□タイル工事	- 24 -
12 章□木工事	- 25 -
13 章□屋根及びびとい工事	- 28 -
14 章□金属工事	- 29 -
15 章□左官工事	- 30 -
16 章□建具工事	- 32 -
17 章□カーテンウォール工事	- 36 -
18 章□塗装工事	- 37 -
19 章□内装工事	- 38 -
20 章□ユニット及びその他工事	- 41 -
21 章□排水工事	- 43 -
22 章□舗装工事	- 44 -
23 章□植栽及び屋上緑化工事	- 46 -
24 章□とりこわし工事	- 47 -



更新後

「総則」	- 1 -
1 章□各章共通事項	- 3 -
2 章□仮設工事	- 9 -
3 章□土工事	- 11 -
4 章□地業工事	- 11 -
5 章□鉄筋工事	- 13 -
6 章□コンクリート工事	- 14 -
7 章□鉄骨工事	- 17 -
8 章□コンクリートブロック、ALCパネル及び押出成形セメント板工事	- 19 -
9 章□防水工事	- 20 -
10 章□石工事	- 23 -
11 章□タイル工事	- 24 -
12 章□木工事	- 25 -
13 章□屋根及びびとい工事	- 25 -
14 章□金属工事	- 26 -
15 章□左官工事	- 27 -
16 章□建具工事	- 29 -
17 章□カーテンウォール工事	- 33 -
18 章□塗装工事	- 34 -
19 章□内装工事	- 35 -
20 章□ユニット及びその他工事	- 38 -
21 章□排水工事	- 40 -
22 章□舗装工事	- 41 -
23 章□植栽及び屋上緑化工事	- 43 -
24 章□とりこわし工事	- 44 -

手順4
この範囲のページ番号が更新されている。
更新された部分は赤字の表示となる。

建築工事特記仕様書の操作概要

8 「A4縦」の特記仕様書(word)を「A3横・2段組」にする方法

A4で作業後
A3に戻す操作

A4の特記仕様書(word)をA3、2段組みにする方法

※必ずレイアウト変更の作業を行う前に編集データの「保存」をおこなうこと

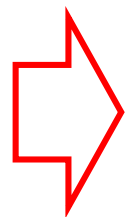
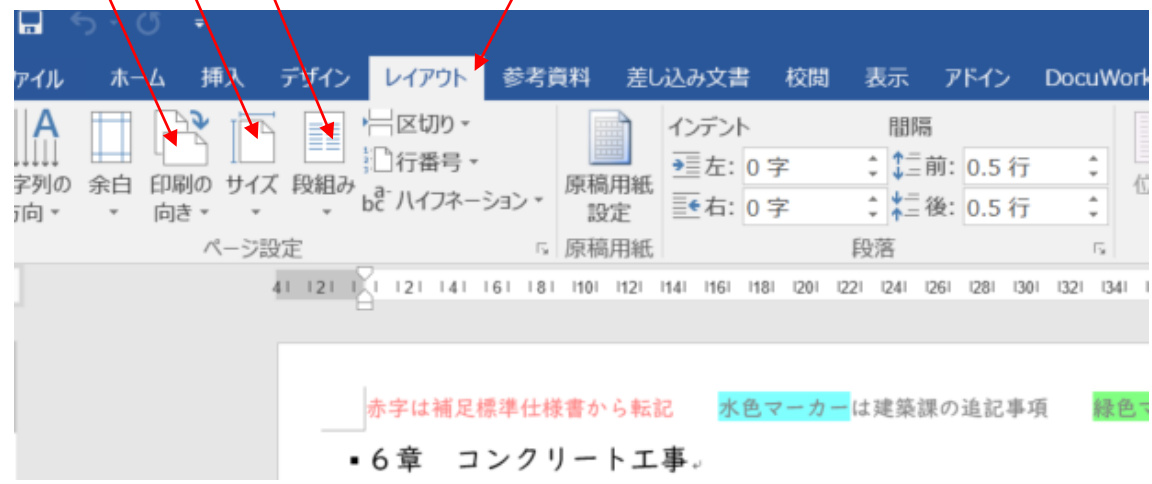
目的：レイアウトをA3、2段組みにすることでページ数を半減する。

手順

1. 「レイアウト」タブを選択
2. 「印刷の向き」を左クリック→「横」を選択
3. 「サイズ」を左クリック→「A3」を選択
4. 「段組み」を左クリック→「2段」を選択
5. 目次の更新を行う→(p7 参照)

手順2 横を選択
手順3 A3を選択
手順4 2段を選択

手順1 「レイアウト」を選択



赤字は補足標準仕様書から転記 水色マーカーは建築課の追記事項 緑色は...

6章 コンクリート工事

2節 コンクリートの種類及び品質

項目	特記事項
コンクリートの種類 (標準 6.2.1)	(1) コンクリートの種類 標準 表 6.2.1 ※1類 [配合設計及び品質管理等を適切に施工できる工場 (全国品質管理協会)の認定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場] から選定する。 ※(2)コンクリートの乳乾率(含水率)による種類: ・普通コンクリート ・軽量コンクリート (3)建築基準法第 37 条第2号の規定に基づき国土交通大臣の認定を受けたコンクリート ・適用する (使用部位:)
コンクリートの強度 (標準 6.2.2)	(1) コンクリートの設計基準強度 (Fc) 以下 普通コンクリート: 36N/mm ² 以下 設計基準強度 (N/mm ²) 適用箇所: ・1B) 〇 ・2A) 〇 ・2B) 〇 ・2C) 〇 軽量コンクリート: 27N/mm ² 以下 設計基準強度 (N/mm ²) 適用箇所: ・1B) 〇 ・2A) 〇 ・2B) 〇 ・2C) 〇
ワーカビリティ及びスランプ (標準 6.2.4)	(2) コンクリートの荷崩し地点におけるスランプ ・構造図による 標準 表 6.2.2 による
構造体コンクリートの仕上り (標準 6.2.5)	(2)(7)(a) 合板せき板を用いる場合のコンクリートの打放し仕上り (標準 表 6.2.4) 種類: せき板の種類 施工箇所: ・A種: 表面加工コンクリート型枠用合板でほとんど覆わないもの ・B種: 表面加工コンクリート型枠用合板以外の型枠用合板でほとんど覆わないもの ・C種: 表面加工コンクリート型枠用合板以外の型枠用合板でほとんど覆わないもの (2)(7)(c) コンクリートの仕上りの平らさ: ※ (標準 表 6.2.5) による 種類: 平らさ 適用箇所: ・a種: 3mにつき7mm以下 〇 ・b種: 3mにつき10mm以下 〇 ・c種: 1mにつき10mm以下 〇

3節 コンクリートの材料及び配合 (標準 6.3.1)

コンクリートの材料	(1)(7)セメントの種類	種類	適用箇所
ポルトランドセメント (JIS R 5210)	※普通	早強・超早強・中熟熱	構造図による
高炉セメント (JIS R 5211)	※A種 ※B種 ※C種	普通	(1)(7): 構造図による ・基礎・地中室
シリカセメント (JIS R 5212)	※A種 ※B種 ※C種	普通	構造図による
フライアッシュセメント (JIS R 5213)	※A種 ※B種 ※C種	普通	(1)(7): 〇
エコセメント (JIS R 5214)	※普通	普通	構造図による

(1)(7)高炉セメントB種及びフライアッシュセメントB種の適用箇所: ① 図示
(注) グリーン購入品に基づき、工事毎の特性、必要とされる強度や耐久性、コスト等に留意した上で採用を推奨する。ただし、構造に平均強度が5%未満の場合は全て普通ポルトランドセメントとする。

(2) 骨材
(7)(a)フェロニッケルスラグ骨材、銅スラグ骨材及び電炉灰質スラグ骨材の使用
・使用する (適用部位) 構造図による

(7)(b)構造体強度補正係数 (S) は標準 表 6.3.2 による
標準 表 6.3.2

コンクリートの打込みから材齢 28 日までの期間の予想平均気温 (℃)	構造体強度補正係数 (S)
普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種	0.85 < S < 1.1
普通ポルトランドセメント	0.85 < S < 1.1
高炉セメントB種	0.85 < S < 1.1
高炉セメントC種	0.85 < S < 1.1
フライアッシュセメントA種	0.85 < S < 1.1
フライアッシュセメントB種	0.85 < S < 1.1
普通セメント	0.85 < S < 1.1
構造体強度補正係数 (S) (N/mm ²)	6.0

※下表は、寒期における冬期初めから28日間の平均気温を示しており、コンクリートの打込みから材齢 28 日までの期間の予想平均気温 (℃) として取り扱う。
※表中にない値は、直線補間して求める。なお、寒冷地には0℃未満としている。
※高度差による補正は、工事場所に近い地域の数値に基づき、100m 高くくなるに0.75℃低くなるものとして算定する。

表-各期の初めから28日間の年平均気温

観測地	神戸 (観測所)	明石 (標準)	三田 (北緯)	三木 (西緯)
標準	9.3m	3.0m	15.0m	14.5m
10月11日	14.2	18.1	15.5	16.7
10月11日	17.4	16.2	13.4	14.8
10月21日	15.5	14.3	11.4	12.9
11月1日	13.5	12.3	9.3	10.9
11月11日	11.6	10.4	7.4	8.9
11月21日	9.8	8.7	5.7	7.2
12月1日	8.4	7.3	4.3	5.8
12月11日	7.3	6.4	3.3	4.8
12月21日	6.6	5.7	2.8	4.2
1月1日	6.1	5.2	2.5	3.7
1月11日	5.9	5.0	2.4	3.6
1月21日	6.2	5.2	2.8	4.0
2月1日	7.0	6.0	3.8	4.9
2月11日	8.0	6.9	4.9	5.9
2月21日	9.2	7.9	6.2	7.1
3月1日	10.2	8.8	7.3	8.2
3月11日	11.8	10.3	9.0	9.9
3月21日	13.7	12.0	10.9	11.8

(7)(b)混合条件、混和材料の使用、①-③以外の混和材料の使用方法及び使用量
・使用する (種類) 適用箇所
・使用量: 製造所の仕様による 構造図による

4節 レディミクストコンクリート工場の特記仕様書 (標準 6.4.1)

レディミクストコンクリート工場の特記仕様書 (標準 6.4.1)
※配合設計及び品質管理等を適切に施工できる工場 (全国品質管理協会)の認定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場から選定する。

完成イメージ

建築工事特記仕様書の操作概要

9 PDF形式への変換方法

PDF形式への変換

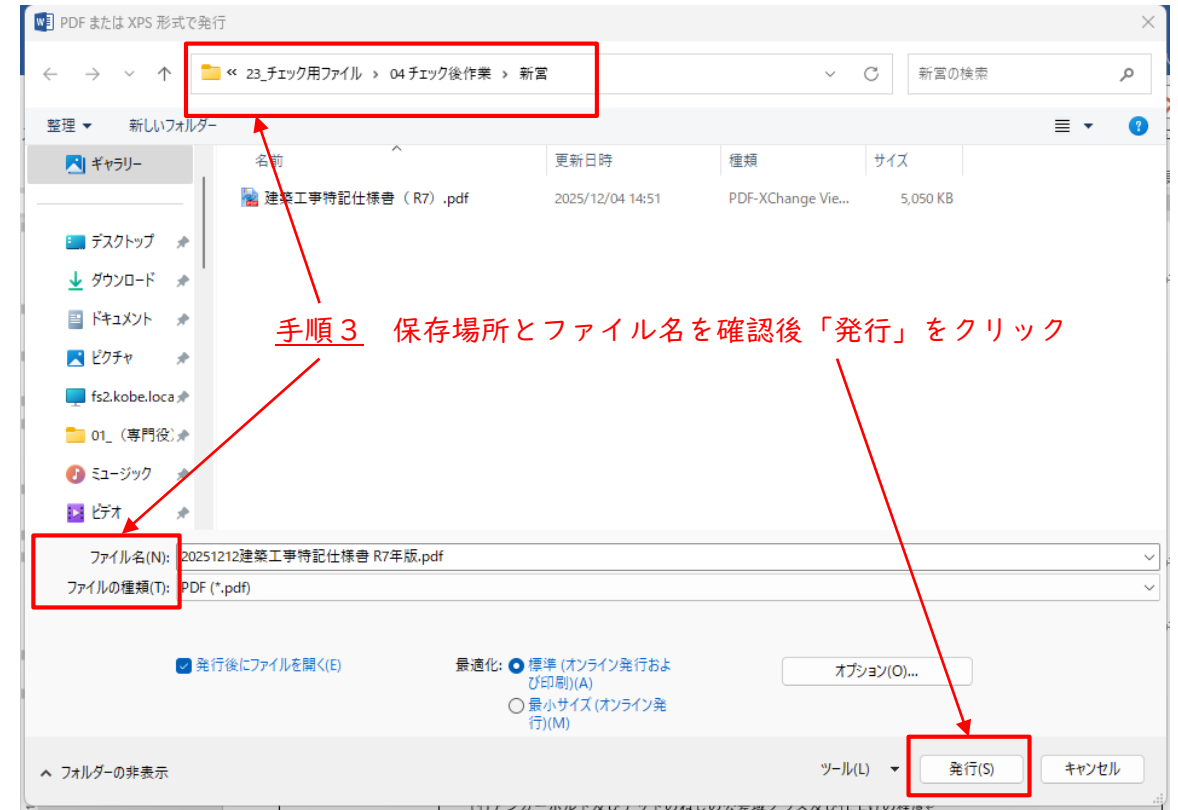
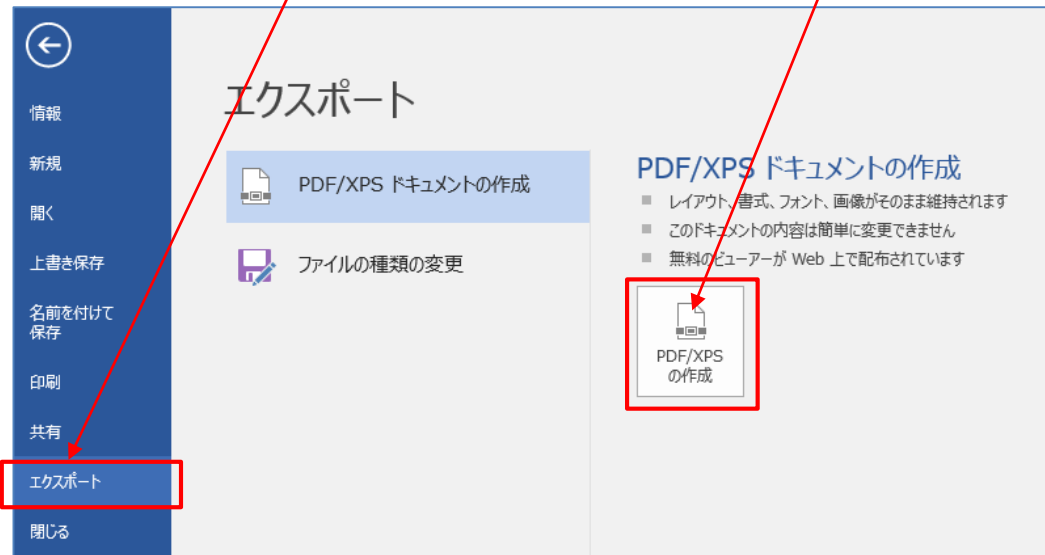
目的：PDFに変換したものを発注図書とするが、PDFに変換してもハイパーリンクを保持させるため下記のいずれかの方法で変換してください。

手順（ひとつめの方法）

- 1 「ファイル」タブ→「エクスポート」をクリック
- 2 「PDF/XPSの作成」をクリック
- 3 保存場所とファイル名を確認後「発行」をクリック

手順1 「エクスポート」をクリック

手順2 「PDF/XPSの作成」をクリック



手順（ふたつめの方法）

- 「ファイル」→「名前を付けて保存」
- 「保存するフォルダを選択」
- 「ファイルの種類」を「PDF」を選択→「保存」

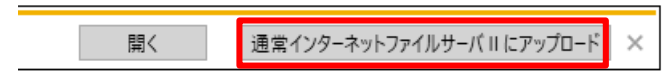
建築工事特記仕様書の操作概要

10 仮想ブラウザからダウンロードする方法 ~委託先からデータを受領する~

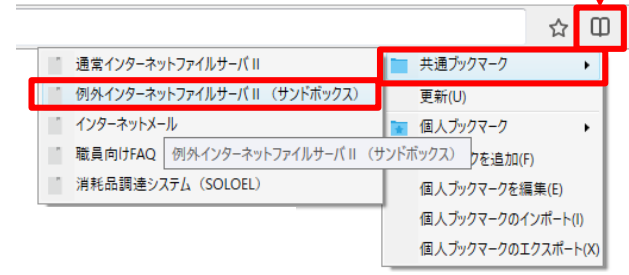
目的：特記仕様書のハイパーリンクを保持したまま仮想ブラウザからダウンロードするため

- 手順
- 1 仮想ブラウザで、受領するデータをダウンロードし、通常インターネットファイルサーバIIにアップロードする。
 - 2 仮想ブラウザの「共通ブックマーク」→「例外インターネットファイルサーバII」を選択
 - 3 「ファイルを選択」からダウンロードしたいファイルを選択
 - 4 「詳細表示」をクリック
 - 5 ダウンロードしたいファイルにチェックを入れ「無害化スキップ」をクリック
 - 6 「OK」をクリック
 - 7 「アップロード」をクリック
 - 8 事務処理用PCの「例外インターネットファイルサーバーII」からファイルをダウンロード

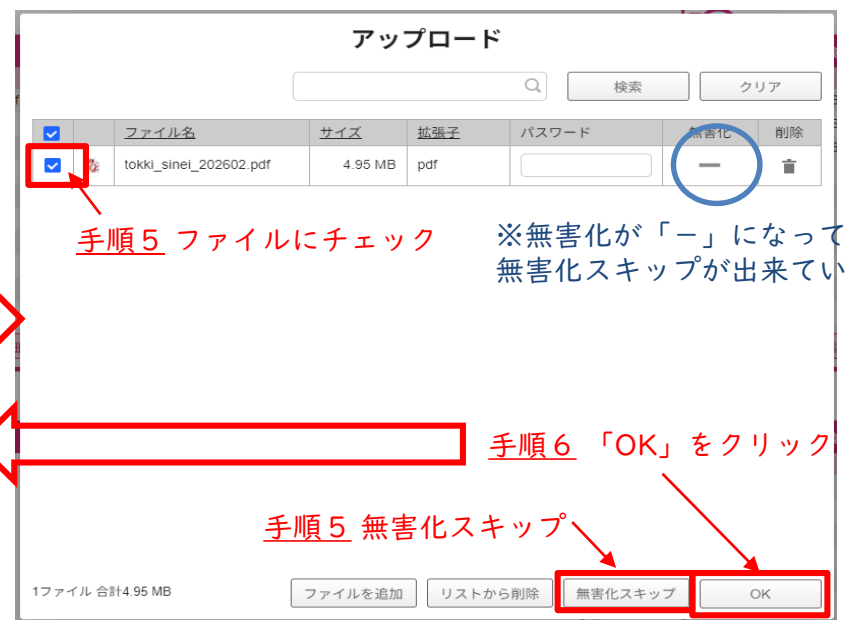
手順1 仮想ブラウザで所定のデータをダウンロード



手順2 仮想ブラウザの「共通ブックマーク」をクリック
「例外インターネットファイルサーバII」を選択



手順3 「ファイルを選択」からダウンロードしたいファイルを選択



手順5 ファイルにチェック ※無害化が「-」になっているたら無害化スキップが出来ている

手順6 「OK」をクリック

手順5 無害化スキップ